

心理的安全性に配慮した中学校社会科の授業における グループワークの実践

学籍番号 229317

氏名 熊谷 真由

主指導教員 松永 尚子

副指導教員 峯 明秀

1. 背景

1.1 本論文の方向性

「対話的な学び」に関連する、話し合いの指導が十分に行われずグループによる活動が優先し内容が深まらないという課題の原因として、生徒同士、そして生徒と教員間の人間関係について着目し、授業のグループワークなどにおける影響力を検討する。

1.2 心理的安全性について

心理的安全性とは、エイミー・C・エドモンドソンが提唱した概念である。エドモンドソンは心理的安全性について、「みんなが気兼ねなく意見を述べることができ、自分らしくいられる文化」と定義している。

2. 本研究の目的

①教員の授業内での声掛けが、話し合いにおける心理的安全性の度合いにどのように影響するかを調査するため、②教員の声掛けの有無で、話し合いにおける生徒の心理的安全性の度合いの変化の有無を調査するため、③以上の調査によって、授業内容がより深められるような話し合い活動を実施するための要因を考察する

3. 研究1

3.1 調査対象者

大阪市内のA中学校1校に通う3年生（2学級）を対象とした。

3.2 調査の方法

五段階での選択回答と、それを選んだ理由の記述回答を質問紙調査による。

3.3 調査の目的

調査対象の生徒が、班での話し合いについてどのような意識を持っているのか、また、この授業における話し合い活動についてどう感じたかを把握することを目的としている。

3.4 結果

良い」「やや良い」を選択した生徒が全体53人のうちの86%を占めた。また、反対に「やや悪い」「悪い」を選択した生徒が全体53人のうちの4%を占めた。

3.5 考察

以上の調査から、班での話し合いのしやすさや班の雰囲気について、調査をした生徒の多くは、①他の生徒との人間関係、②自らの意見を言った際の班員からの反応、③他の班員が自分と同じように意見を言うことができているかどうか、という点に注目して判断していると考えられる。

4. 研究2

4.1 調査対象者

大阪市内のA中学校1校に通う3年生（3学級）を対象とした。

4.2 調査の方法

五段階での選択回答と、それを選んだ理由の記述回答を質問紙調査による。

4.3 調査の目的

「研究1」と同様である。

4.4 結果

質問紙調査の結果、「良い」「やや良い」を選択した生徒が全体74人のうちの77%を占めた。また、反対に「あまり良くない」「良くない」を選択した生徒が全体74人のうちの6%を占めた。

4.5 考察

調査をした生徒の多くは、①他の生徒との人間関係、②自らの意見を言った際の班員からの反応、③他の班員が自分と同じように意見を言うことができているかどうか、④納得するまで話し合うことができるかどうか、⑤班員と意見を共有することで新たな考え方を得られるかどうか、という点に注目して判断していると考えられる。

5. 研究3

5.1 調査対象者

大阪市内のA中学校1校に通う3年生（3学級）を対象とした。

5.2 調査の方法

7件法の質問紙調査による。

1 全くそう思わない / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / 7 非常にそう思う

5.3 調査の目的

「研究1」と同様である。

5.4 結果

尺度1、2、5の回答数に顕著な変化が見られた。尺度1、2の回答数は、ほとんどの質問で1回目の回答より2回目の回答が減少した。反対に、尺度5の回答数はほとんどの質問で1回目の回答より2回目の回答が増加していた。

6. 本研究の成果と課題

2時間の授業だけでは、心理的安全性の度合いが向上したということは考えにくいのではないだろうか。今後も調査を長期的に継続し、質問紙調査を定期的実施することによって、初期との変化がみられるかどうかを検討することが必要であると考えられる。